

# 会 議 録

第 1 9 回定例会

開会 令和5年2月10日

## 教育委員会会議録

1 開 会 令和5年2月10日 午前10時

2 閉 会 令和5年2月10日 午前11時20分

### 3 教育委員会出席者

教育長	榊 浩一
委 員	島 隆寛
委 員	三木 千佳子
委 員	河野 暁
委 員	岡本 弘子
委 員	横田 賢二

### 4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	臼杵 一浩
教 育 次 長	中野 敏章
教 育 次 長	生田 雅和
教 育 創 生 課 長	重田 英紀
教 職 員 課 長	真相 秀也
人権教育課いじめ問題等対策室長	蔭山 善宏
教 育 政 策 課 長	小原 広行
教 育 政 策 課 副 課 長	山星 茂

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 議案第57号，協議事項1，及び報告事項3を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし，議事に入ることを告げる。

《協議事項2 令和6年度徳島県立中学校及び徳島県立中等教育学校入学者選抜の基本方針について》

教育長 説明を求める。

教育創生課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

岡本委員：リスニングの検査を実施するに当たり，聞くことに何らかの困難さがある受検生に対しては，どのような配慮をするのか。

教育創生課長：リスニングを受検できない場合には，特別措置として配慮した問題を別に作成する。

横田委員：基本方針には，面接について個人面接又は集団面接のいずれかを実施する，とあるが，どのような選択になっているか。

教育創生課長：各学校がそれぞれ個人面接か集団面接を選択することとなっている。令和5年度入学者選抜では，富岡東中学校と城ノ内中等教育学校は集団面接，川島中学校は個人面接を実施している。

教育長 協議事項2を議案第59号として付議してよいかを諮る。

各委員 異議なし。  
教育長 議案第59号を原案どおり決定してよいかを諮る。  
各委員 異議なし。  
教育長 議案第59号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項1 令和6年度徳島県立中学校及び徳島県立中等教育学校入学者選抜の適性検査における外国語（英語）に関する内容の出題について》

教育長 報告を求める。  
教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：英語を出題する前提として、小学校間で教育内容にばらつきがないように、また、新しい試みであるので受検生が戸惑わないようにしてほしい。

教育創生課長：新しくリスニングを導入することを踏まえ、基本方針を例年より早く公表するとともに、あわせてサンプル問題も公表した。今後、受検生や保護者が混乱を来すことがないように、丁寧に周知を図っていく。

生田教育次長：小学校の英語教育を支援するため、総合教育センターでは英語の指導主事が各学校へ訪問したり、質問を受け付けたりしている。また、現在では1人1台端末のタブレットや電子黒板等を活用して、ALTとオンラインでつなぎ、ネイティブの発音を聞くこともできる。こうした取組を推進し、引き続き、県全体の小学校の英語教育を高めていく。

三木委員：来年度から英語が適性検査に導入されそうだという事は受検生や保護者、学校の関係者は認識しているか。

教育創生課長：現小学5年生が、小学3年から6年までの4年間を通して英語を学ぶ最初の学年となるので、英語を学ぶことが重要であるということは、それぞれ認識していると思う。

横田委員：外国語活動と教科英語との違いは何か。

教育創生課長：小学3・4年生の外国語活動は英語に慣れ親しむ活動で、小学5・6年生では教科として英語を学ぶ。英語の教科化に伴い、授業では教科書を使用し、評価は段階別の評定をつけている。時間数としては、外国語活動が週1時間、教科英語が週2時間である。

横田委員：将来的に小学1・2年生でも英語の授業が始まるか。

教育創生課長：現学習指導要領では、小学3年生からとなっている。将来的には、英語教育の開始時期が早まることもあるかもしれない。

生田教育次長：学校には、各市町村からALTの派遣や、外国語の専科教員が配置されている場合がある。そうした学校では、1年生の生活科の時間等を活用して、3・4年生の外国語活動につながるよう、楽しみながら、英語を学ぶ内容を扱っている。

横田委員：英語教育の充実を図ることにより、徳島県で育った人は英語の上達が早いとなれば良いことである。私自身が企業人として、英語の必要性を痛感しているので、小学校や幼稚園のような小さい時から、外国の方と触れ合ったり、外国語に慣れ親しんだりする機会をもっと増やしてほしいと思う。

島委員：楽天株式会社の三木谷浩史氏の著書によれば、日本は英語教育で2,000時間程度の授業をしているが、1,000時間あれば「話すこと」「聞くこと」は、ほとんどできるようになるとのことである。現在はスマホを使えば、「書くこと」「読むこと」は自動翻訳することができる。今、4技能のうち「話す・聞く能力の育成」に重点が置かれるようになっており、この方向性をぜひ推進していただきたい。

岡本委員：私の教師としての経験からすると、このリスニングのサンプル問題の難易度は、適切だと思う。ただし、小学校教育において身に付けた多様な力をみる問題として、会話中の単語と、それを表すイラストとを結び付けるといった設問で本当にいいのかと疑問に感じる。会話として聞き取っているのに、それに対して、受検生がどのように会話を続けるのかを英語で答えるような設問がふさわしいのではないか。

教育創生課長：現在の学習指導要領の内容を基に、サンプル問題を作成している。いただいた御意見も参考にしながら、今後、問題作成を進めていく。

岡本委員：聞くことに何らかの困難さがあることを、受検に際して初めて知る児童もいるかもしれない。リスニングの音声はイヤホンで聞き取るのか、一斉放送で流れるのか。

教育創生課長：一斉放送である。

岡本委員：支援が必要な児童にも配慮する必要がある。

教育長：リスニングについては、高等学校入学者選抜でも実施しており、県教委及び学校はノウハウを持っている。支援が必要な児童には、文字による代替問題を準備するなど、十分に配慮していく。中学校等の入学者選抜ではリスニングを初めて実施するので、保護者や子供は出題内容が一番気になると思う。今回のサンプル問題の公表や、例年より早く3月には選抜要項をお示しすることなど、心配なく受検できるよう、これからも丁寧に説明をしていきたい。

《報告事項2 「徳島県公立高等学校魅力化推進委員会報告書」の概要について》

教育長 報告を求める。  
教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

三木委員：スクール・ポリシーの策定による効果を検証する方法はあるのか。

教育創生課長：各学校では、毎年、学校評価を実施しており、学校運営協議会委員の皆様にも参加していただきながら、取組の自己評価等を行う中で、効果を検証することができると思う。

中野教育次長：スクール・ポリシーに係る評価については、従来の学校評価において、生徒や保護者にアンケート調査を行ったり、学校運営協議会委員等の関係者を交えて議論してもらったりするなどして実施している。また、スクール・ポリシーを中学生に発信することにより、学校選びにも役立つと考えられ、体験入学やオープンスクールなどの機会も生かして、広報していく必要がある。

岡本委員：取組事例で紹介されているような活動が発展することを期待する。教育は、人々を幸せにしたり、社会を発展させたりするためにある。この活動が形だけで終わることなく、学力向上にもつながり、進路も見据えられるような一貫した教育活動になればいいと思う。

中野教育次長：以前の普通科では、知識重視の方向性が顕著であったが、現在の社会では主体的に学ぶ力や協働的に学ぶ力など様々な力が必要であるといわれている。こうした力を培うことと、子供たちが自分の学校を誇りに思えるといったことの両面から、魅力化という方向性のもとで各学校が全力で取り組んでおり、県教委としても学校の活動を支援してまいりたい。

《報告事項4 令和4年度第3回徳島県いじめ問題等対策審議会の議事内容について》

教育長 報告を求める。  
いじめ問題等対策室長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：先日、東京で開催された全国都道府県教育委員会連合会総会等に参加し、そこで「いじめや不登校の現状と対応」の分科会に参加した。他県の教育委員

から参考となる様々なお話を聞いたが、その中でも特色があると感じたことは、食事と運動の重要性についてである。不登校と栄養との関係性や、「朝ご飯を食べないとイライラが募る」「運動不足でパワーを発散する場所がない」など、食育や運動の重要性を仰っていた。食育を意識している委員が多くいたことが印象深く、身体と精神の形成も大事であるという意見も多数あった。

いじめ問題等対策室長：食事と運動の重要性は認識しており、規則正しい生活が大事である。不登校の子供は、生活リズムが崩れ、体調不良になる心配もあり、保護者と連携を図ることが重要であると考えている。

岡本委員：心が温まる動画だと思う。動画を作るということが重要なことであり、例えばクラスの中に同じ動きができない子供がいたとして、それをみんなで共に考え、工夫して参加することで、達成感を共有できる。また、地域のことを子供たちが自ら紹介することで、改めて自身の地域の良さを実感できるなど、動画制作を通じて多くのことを学べたと思う。このような活動をできるだけ多くの学校やクラスに広げていけたら良いと思う。今はタブレットなどが身近にあり、どの学校でもこのような活動ができると思うので、学校の自慢大会や取組の発信など、もっと広げていただけたらと思う。

いじめ問題等対策室長：今年度の反省点や、御意見も参考にしながら、バージョンアップして継続していきたい。

教育長：学校の取組を多くの方に知っていただくことは難しいという意見もあるが、学校は様々な形で取組を発信し、多くの方に応援していただける存在にならなければならないと思う。「学校はこんなことをしているんだな」「こういうことなら手伝ってあげようかな」と、学校を知っていただき、学校の応援団が増えていってもらえるよう、次年度も取組を継続したい。

[非公開]

《協議事項1 令和4年度2月補正予算案について》

《議案第57号 徳島県教育委員会の採用に係る技能労務職員の給与に関する規則の一部を改正する規則について》

《報告事項3 大学推薦（大学指定枠）等について》

[閉 会]

教育長

本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前11時20分